

## 2024年度 第1回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

2024年6月5日（水）13時30分より、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その内容について公表します。

### 《議事内容》

○場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80

○出席者 委員：17名 オブザーバー：18名 計35名

○協 議 (1) 2023年度事業報告（案）・収支決算（案）について  
（監査報告）  
(2) 令和5年度 秋田市中心市街地活性化プランの定期フォローアップに関する報告について  
(3) その他

○報 告 (1) 千秋公園大手門の堀遊歩道の供用開始日等について  
(2) 令和6年度 秋田県冬の大型観光キャンペーンの実施概要について  
(3) まちづくりセミナーの開催について  
(4) 広小路バザールの開催概要について  
(5) 2024 千秋蓮まつりの開催概要について  
(6) その他

○情報提供 (1) 東北経済産業局からの事業紹介

### 《発言内容》

#### 【社会長の開会挨拶】

- ・「これが秋田だ！食と芸能大祭典」は、天候にも恵まれ、来場者は14万3千人と成功裡に終了することができ、皆さまのご支援・ご協力に感謝する。
- ・今年は、秋田港へのクルーズ船の寄港が27回予定され、中心市街地では今月29日に千秋美術館がリニューアルオープンし、7月には千秋公園大手門の堀遊歩道が供用開始となり、大きな効果を生み出すことを期待している。
- ・また、千秋蓮まつりや広小路バザール、竿燈まつり等、秋田の夏を盛り上げるイベントが目白押しとなっており、好循環を絶やすことなく継続する必要がある。
- ・本日は、2023年度事業報告・収支決算案、中心市街地活性化プランの定期フォローアップについて協議後、千秋公園大手門の堀遊歩道、冬の大型観光キャンペーンの実施概要等について報告を予定している。皆さまから忌憚のない意見をお願いしたい。

## 【協 議】

### (1) 2023 年度事業報告（案）・収支決算（案）について

事務局が、協議会および芸術文化ゾーン活用研究会の開催やアートなまち歩き発信事業等の実施など、2023 年度の事業報告（案）を説明した後、収支決算（案）について説明した。山下監事が監査報告を行い、原案どおり承認された。

### (2) 令和 5 年度 秋田市中心市街地活性化プランの定期フォローアップに関する報告について

秋田市都市総務課の菊地課長が以下のとおり説明し、原案どおり承認された。

- ・令和5年度終了時点の中心市街地の概況について、令和5年度はハード事業の完了はなかったものの、広小路バザールをはじめとするソフト事業の実施により、中心市街地に人を呼び込むことができ、にぎわいの創出に繋がったものと捉えている。また、コロナ禍で一時中断していたクルーズ船の寄港は、昨年3月に外航船の受け入れを再開するなど、寄港回数は過去最高の23回となっており、今年度も増加予定であることから、中心市街地への来街者も今後増加していくものと予想される。さらに、中心市街地の歩行者・自転車通行量や芸術文化施設利用者数は、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、大幅に落ち込んでおりましたが、法的位置付けが5類に移行したことや文化創造館、ミルハスの活用が進んできていることから回復傾向にある。今後、今月には千秋美術館のリニューアルオープン、来月には千秋公園大手門の堀遊歩道の供用開始、来年秋には佐竹史料館の開館を予定しており、通行量や施設利用者数はさらなる増加が見込まれる。民間主体の取組では、中心市街地周辺にマンションが2棟完成したほか、現在もマンション3棟とホテル1棟が建設中。また、洋上風力発電関連事業に関連した宿泊需要やインバウンド需要などを見込み、民間によるホテル建設なども広がっていくものと思われる。今後は、完成予定のハード事業と連携して各種ソフト事業を行い、官民一体で中心市街地の魅力向上に努め、さらなる活性化に向け取り組んでいく必要があるものと考えている。
- ・居住人口について、中心市街地の人口は4,387人と令和4年度と比較し127人増加しており、特にマンションの入居開始があった地域で増加している。地価データについて、商業地域の平均値は上昇しており、前計画から継続して実施してきた事業の成果がデータとして現れてきている。
- ・本プランは5つの目標指標を設定している。「歩行者・自転車通行量」は、令和9年度に33,300人の達成を目標としているが、令和5年度の通行量は、30,364人となり、現況値である令和4年度と比べ5,626人増加している。これは、文化創造館とミルハスの利用者数の増加や新型コロナウイルス感染症の法的位置付けが変わったことなどが影響しているものと考えられ、今後も千秋公園の堀の遊歩道の供用開始といったハード整備に加え、引き続き各種イベントなどのソフト事業を実施していくことにより、目標達成は可能と見込んでいる。「芸術文化施設利用者数」は、令和9年度に1日あたり2,300人の利用を目標としており、対象施設はミルハス、県立美術館、千秋美術館、佐竹史料館の4施設となっている。千秋美術館と佐竹史料館は休館中のため、令和5年度はミルハスと県立美術館、2施設の利用者数となっている。令和4年度が1日あたり1,782人の利用者数であったのに対し、令和5年度は1,910人となり、2施設が休館中である中、1日あたり128人増加している。今後、千秋美術館、佐竹史料館のリニューアルオープンなどにより、さらなる利用者数の増加が見込まれ、目標達成は可能と

見込んでいる。「市内総人口のうち中心市街地人口が占める割合」は、中心市街地の人口割合は、令和9年度に1.9%まで上昇させることを目標としているが、令和5年度は1.5%と令和4年度と比較して0.1%上昇している。これは、民間マンションの完成・入居開始などの要因により、人口割合の上昇につながったものと捉えており、現在建設中のマンションも順次完成を迎えることから、目標達成は可能と見込んでいる。「商業集積促進関連制度利用件数」は、創業・起業などの支援制度の利用件数を計画期間の累計で評価するものであり、本市の中心市街地空き店舗対策事業、中心市街地出店促進融資あっせん事業、商工業振興奨励措置事業の件数で評価している。目標値は5か年の累計で181件と設定しているが、令和5年度実績は36件と、制度も浸透し順調に推移していることから目標達成は可能と見込んでいる。「市民活動等施設利用件数」は、にぎわい交流館やアルヴェ、文化創造館の貸し会議室等の利用件数であり、目標値として令和9年度に年間19,700件と設定している。これに対し、令和5年度は18,790件と令和3年度の現況値と比較して1,708件増加し、概ねコロナ禍前の実績に戻りつつあり、今後も各種事業を着実に継続実施していくことで目標達成は可能と見込んでいる。

- 今後のスケジュールについて、本報告書案に本日の協議会からの意見を加え、7月上旬に本市のホームページ上で公表する予定。

#### <意見・質問>

秋田市大町商店街振興組合の高堂理事長が以下のとおり発言した。

- 観光の一端を支えるタクシー業界が芳しくないという耳にしたが、状況を把握しているか。

秋田市交通政策課の間杉課長が以下のとおり発言した。

- 秋田県ハイヤー協会から高齢化などにより運転手が不足しているとの報告を受けている。今後、同協会秋田支部では運転手の担い手確保に向けてPR動画を作成するなど取り組む予定。

秋田市大町商店街振興組合の高堂理事長が以下のとおり発言した。

- タクシー乗車の際に、運転手から労働環境が良くないという話を聞く。側面から支えると同時に利用者の利便性が向上するような施策も検討して欲しい。

秋田大学の篠原委員が以下のとおり発言した。

- 居住人口（夜間人口）と交流人口（来街者数）について把握しているのは良いが、中心市街地外からの通勤者や通学者（昼間人口の外来者分）が把握されず、その人口が反映されていない。イベントなどで一時的に訪れる人たち以上に、中心市街地内で働き・学んでいる人たちの動向が、日常的な活性化には繋がるので、所謂、昼間人口の動向を適宜、把握する必要がある。
- イベントに関するPRや情報伝達を展開する中で、中心市街地内の町内会や自治会を良い意味で巻き込んだ方が、災害発生時でも連絡網がしっかりしているため、「地域活性化」がより根付いたものになると思う。

秋田市都市総務課の菊地課長が以下のとおり発言した。

- 日常の賑わいという部分では、昼間人口を捉える必要があると認識している。定期的に行っている人口に関する調査なども統計を取っているため、その部分も意識しながら施策などに反映

できればと思う。また、地域の活性化は市民との協働であり、地域防災の視点でも地域コミュニティは全市的に重要なため、中心市街地においても意識しながら進めていきたい。

## 【報 告】

### (1) 千秋公園大手門の堀遊歩道の供用開始日等について

秋田市公園課の伊藤副参事が以下のとおり報告した。

- ・遊歩道については、千秋公園再整備基本計画に位置付け、令和3年度から事業を進め、社会情勢の変化による資材高騰など非常に厳しい条件下の中、周辺施設の協力を得て今月末で完成の見込みとなった。
- ・供用開始日は、7月11日木曜日の午前10時30分に一般開放を予定している。それに先立ち供用開始式典を午前10時から秋田市文化創造館芝生広場で執り行う予定。11日から15日には、市の記念式典や千秋蓮まつりのライトアップ点灯式、AKT 夏祭り、広小路バザールあきた芸術劇場ミルハスでの公演など予定されていることから、幅広い年代の方々に利用しているだけのものと考えている。
- ・運用方針について、利用者が安心して蓮の観賞を楽しめるように車いすやベビーカーのほか、歩行が困難な方の歩行補助具での利用を想定し、車両等（バイク、自転車、スケートボード・キックボード等）の通行は禁止とする。夜間照明は、フットライトを設置しているが、点灯時間は日没後から原則、午後10時までとする。消灯後の夜間の通行については、柵等で閉鎖せずに人感センサーで音声により通行を制止させる形式とする。冬季利用は、12月から3月まで基本的に通行止めとし、柵で出入口を閉鎖する。冬季閉鎖は、凍結や降雪の状況により判断し、閉鎖期間は適時アナウンスする。遊歩道を活用して中心市街地のさらなる活性化に繋がるイベント等について、夜間照明の時間や冬季利用の制限など事業者等と協議のうえ柔軟に対応する。
- ・遊歩道整備との相乗効果が図られるよう、東側ポケットパークの植栽スペースを階段状のデッキとして改修する。今年11月以降に着工し年度内の完成を予定している。多目的なオープンスペースとして、誰もがくつろげる憩いの空間を新たに創出することで、遊歩道と併せて中心市街地の活性化に寄与するものと考えている。

### <意見・質問>

NPO 法人秋田バリアフリーネットワークの菅原理事長が以下のとおり発言した。

- ・通行時間外の通行を制止ツールは音声のみか。

秋田市公園課の伊藤副参事が以下のとおり発言した。

- ・音声のほか、東ポケットパーク・文化創造館の両側に看板を設置する。

NPO 法人秋田バリアフリーネットワークの菅原理事長が以下のとおり発言した。

- ・東側ポケットパークの植栽スペースを階段状のデッキへと改修する計画だが、バリアフリーへの対策はどのように考えているのか。

秋田市公園課の伊藤副参事が以下のとおり発言した。

- ・中央は階段状のデッキとなるが、両側にはスロープがあり、このスロープを通過して遊歩道を利用できる。

NPO 法人秋田バリアフリーネットワークの菅原理事長が以下のとおり発言した。

- ・誰もがくつろげる憩いの空間という目的に沿って、ユニバーサルデザインに配慮して欲しい。

仲小路振興会の三浦副会長が以下のとおり発言した。

- ・誤って落水した場合に備え、緊急連絡先や対処法等を掲出するのか。

秋田市公園課の伊藤副参事が以下のとおり発言した。

- ・2箇所に救命 BOX を設置し、開けると周囲に響き渡る音が鳴る仕様となっている。

仲小路振興会の三浦副会長が以下のとおり発言した。

- ・救命具は、一般の方でも使えるよう説明書等を備えているのか。

秋田市公園課の伊藤副参事が以下のとおり発言した。

- ・市 HP 等で写真や説明書を示す予定。

辻会長が以下のとおり発言した。

- ・誰でもすぐわかるように示す必要がある。また、バリアフリーもしっかりと対応して欲しい。

秋田市公園課の伊藤副参事が以下のとおり発言した。

- ・周知については、7月の供用開始まで検討する。

NPO 法人秋田バリアフリーネットワークの菅原理事長が以下のとおり発言した。

- ・夜間通行する際に蓮の花ライトアップが支障を来すか供用開始前に検証が必要。

辻会長が以下のとおり発言した。

- ・供用開始前に検証して欲しい。

事務局が以下のとおり発言した。

- ・遊歩道の完成に合わせてライトアップを工夫する予定だが供用開始前に検証する。

## (2) 令和6年度 秋田県冬の大型観光キャンペーンの実施概要について

秋田県誘客推進課の石戸谷副主幹が以下のとおり報告した。

- ・令和6年12月から令和7年2月、JR東日本「重点販売地域」の指定を受け、首都圏をはじめとするJR東日本管内で「大型観光キャンペーン」を実施して冬季誘客を推進する。令和5年度はプレキャンペーンを実施し、キャンペーン本番となる今年度はJR媒体を使用しPR。JR東日本秋田支社のほか、秋田県観光連盟や各市町村、観光事業者等と連携しながら官民一

体となって事業を進める。昨年度キャッチコピー「冬の秋田はほっとけない！」の継続性を意識しつつキャンペーンを一体的に実施する。

- 昨年度は約 370 のコンテンツを収集したが、今年度は 500 以上の収集を目標とする。収集したコンテンツ情報やスポット情報をデジタル周遊ラリーへも反映し、期間中の周遊を促進する。また、通常の観光コンテンツに少しだけ特別感や工夫を加えた飲食メニューを紹介するほか、冬季の観光誘客の促進を目的として体験型コンテンツの割引キャンペーンをアソビューと連携しながら実施する。

### (3) まちづくりセミナーの開催について

事務局が以下のとおり報告した。

- 誰もが居心地が良く歩きたくなるまちの形成に向けて、実践的な活用方法等を学ぶセミナーを 6 月 17 日、にぎわい交流館 AU にて開催。本セミナーは、当協議会で今年度ウォークアブルなまちづくりについて研究を進めることとしていることから、秋田商工会議所等との共催により開催するもの。講師は、まちづくりを専門に全国各地で活性化支援を手掛ける東京大学名誉教授の堀繁氏。

### (4) 広小路バザールの開催概要について

事務局が以下のとおり報告した。

- 通算で 5 回目となる広小路バザールは 1 回目を 7 月 15 日、2 回目を 9 月 29 日に開催。会場は広小路と中土橋、7 月の出店は過去最多の 83 コマ。テントブースは 48 コマ（うち新規 9）、キッチンカーは 27 コマ（うち新規 8）。来場見込みは 1 回 5 万人の計 10 万人。

### (5) 2024 千秋蓮まつりの開催概要について

事務局が以下のとおり報告した。

- 交流人口の拡大とナイトタイムを含む継続的な賑わい創出を目的に、7 月 12 日から 8 月 31 日まで、千秋公園蓮の花ライトアップに合わせて 51 日間開催。秋田観光コンベンション協会主催の「千秋公園蓮の花ライトアップ」は、7 月 12 日から 8 月 31 日の 19 時から 22 時、竿燈期間中は 22 時 30 分まで延長。遊歩道とマッチしたライトアップ方法を検討中。点灯式は 7 月 12 日、東側ポケットパークで予定。「秋田市竿燈会直前合同練習会」は、7 月 26 日・27 日、エリアなかいち にぎわい広場で秋田市竿燈会による公開練習を実施。近隣ホテル宿泊者を対象とした特別観覧席の設置のほか、ふれあい竿燈やあきた観光レディとの記念撮影を予定。「週末ロータスカフェ」は、東側ポケットパークに週末の夜限定のオープンカフェを開設し、夜の景観演出と周辺飲食店への誘客を促進する。7 月 12 日から 8 月 31 日の週末（金・土曜日）、17 時から 21 時を予定。アルコールやソフトドリンク、軽食を提供。「インバウンド観光」は、期間中に中心市街地を訪れる外国人旅行者を対象とした体験型コンテンツ企画。ダイヤモンド・プリンセスの乗船客を主な対象として浴衣で遊歩道の散策や写真撮影等を提供。「LOTUS FESTIVAL2024」は、ナイトマーケットを 8 月 17 日、蓮の花キャンドルナイトを 8 月 17 日・18 日に予定。「蓮の花フォトコンテスト」のほか、連携企画・連携イベントも実施する。

【情報提供】

(1) 東北経済産業局からの事業紹介

- ・東北経済産業局商業・流通サービス産業課の成田課長が情報提供した。

【その他】

秋田市大町商店街振興組合の高堂理事長が以下のとおり発言した。

- ・中心市街地活性化プランに、年齢別統計データや居住者の数・推移が分かるエリアマップなど、もう少し掘り下げたものがあったら良い。

NPO 法人アーツセンターあきたの藤理事長が以下のとおり発言した。

- ・体験型コンテンツについて、中心市街地でどのような体験ができるのかを考えた時に、他都市でも出来る体験ではないか、中心市街地でしかできない唯一無二の体験とは何か、そのようなコンテンツがつくれているのか疑問。東側ポケットパークの整備について、先程バリアフリーの話題が出たが、事業として整備を進めるのであれば、唯一無二のここでしかできない空間体験が作り得ると考える。ライトアップも意外性や特別な体験ができると良い。文化創造館の活動の中で、新しいコンテンツを創り出す人材が秋田市内に増えていくと信じている。そのうえで、何か活動をつくりだそうとしている人たちと、外から来る観光客等との接点を作ることが中心市街地ではできると考えている。その接点が、単なる飲食の提供ではなく、何かをつくる体験や特別な体験、コミュニケーションを促す体験など、色々なコンテンツが中心市街地でできると思う。本協議会が新しいコンテンツの提供へと繋がることを願う。

閉 会